

公の施設の指定管理者の候補者選定に係る答申書

令和 5 年 10 月

鈴鹿市公の施設の指定管理者選定委員会

鈴鹿市公の施設の指定管理者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、鈴鹿市からの諮問を受け、令和6年度指定開始施設に係る公の施設の指定管理者の候補者選定について、委員会としての意見を集約したので、ここに答申する。

1 選定委員会委員

会 長	齊藤 由里恵	中京大学 経済学部 准教授
職務代理人	別府 孝文	株式会社三十三総研 調査部長
委 員	市川 恭子	一級建築士
委 員	須川 尚郎	税理士
委 員	長谷川 玲子	元市職員

2 答申までの経過

7 月 4 日	指定管理者の候補者選定についての諮問 第1回選定委員会 選定スケジュール等の確認 公募施設における指定管理者候補者の選定方法 公募施設の施設概要及び評価基準の確認（鈴鹿市民会館，鈴鹿市文化会館）
10 月 5 日	第2回選定委員会 公募施設に係る申請者ヒアリング及び選定審査の実施
10 月 12 日	第3回選定委員会 答申書の検討

3 公募による指定管理者候補者の選定結果

委員会は、各申請者から提出された事業計画書等を書面審査の上、1団体当たり約40分間のヒアリングを実施した。

ヒアリング後、各委員が、評価基準に沿った項目ごとに、「非常に良い（高度な能力を有している）」「良い（十分な能力を有している）」「普通（平均的）」「やや劣る（能力が少し不足している）」「劣る（任せることが心配）」の5段階の評価を行い、各項目の配点ごとに5段階評価に対する率を乗じて得られた点数を加算し、5人の委員の合計点が総配点（500点）の50%以上であり、かつ、1番高い点数となった申請者を指定管理者の候補者として選定した。

○ 5段階評価

評価		点数
5	非常に良い（高度な能力を有している）	配点の100%
4	良い（十分な能力を有している）	配点の75%
3	普通（平均的）	配点の50%
2	やや劣る（能力が少し不足している）	配点の25%
1	劣る（任せることが心配）	0点

(1) 鈴鹿市民会館，鈴鹿市文化会館

①対象施設 鈴鹿市民会館，鈴鹿市文化会館

②指定管理者候補者

名 称 鈴鹿アートライフデザイン

所在地 東京都港区芝三丁目 2 3 番地 1 号

代表者 古野 浩樹

代表団体 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

構成団体 国際ライフパートナー株式会社

構成団体 近鉄ファシリティーズ株式会社

③申請者

4 団体

④評価基準・項目ごとの採点結果

						鈴鹿アートライフデザイン		A		B		C									
大項目		中項目		評価基準		点数		点数		点数		点数									
項目	配点	項目	配点	項目		中項目	大項目	中項目	大項目	中項目	大項目	中項目	大項目								
公の施設の 管理者としての理解、 姿勢	10	公民連携に対する理解と姿勢	5	公民連携の主旨を理解しているか		21.25	41.25	20.00	40.00	21.25	41.25	20.00	40.00								
				指定管理者制度概要及び主旨を十分理解しているか																	
				自らが持つノウハウ等の強みを活かした意欲的な提案であり、受託に向けての熱意が感じられるか																	
		施設に対する理解	5	施設の性格を理解し、設置目的に合致した理念・運営方針を持っているか		20.00		20.00		20.00		20.00									
設置目的達成に資する取組としての的確性、 独創性	20	住民サービスの向上	10	自らのノウハウを活かした創意工夫によるサービス向上及び利用促進が図られるとともに、施設の効用が最大限発揮されるものか（喫茶室の運営提案、鈴鹿市公共施設予約システムの活用等）		42.50	81.25	37.50	73.75	37.50	77.50	32.50	67.50								
				利用者からの要望の把握とその実現に向けた取組があるか																	
				SNSやホームページの活用、広報誌の発行などの積極的な市民への情報提供の実施による利便性向上や利用促進が図られるか																	
				職員の研修や利用者とのトラブル対応の体制確保により、住民への接遇や対応力向上が図られているか																	
				施設の利用に関し、公平性について考慮しているか																	
				施設の維持保守が効率的かつ安定的に行われるか																	
		施設の適切な維持管理、保守	5	施設及び設備の保守点検の法令等に基づく点検、備品等の管理、施設清掃、植栽管理、小破に対する計画的な修繕等が適切に実施されるか		21.25		17.50		21.25		16.25									
				連携、協力体制の確保	5								市、関係機関等との有効な連携・協力体制を確保できる提案となっているか		17.50		18.75		18.75		
適切な業務遂行のための体制・規律の整備と実行性	20	人員体制	5			人数、職種、資格の有無等、事業内容に適した職員が配置されているか		20.00		17.50	20.00	15.00									
				ルール・マニュアルの整備と遵守	5	会計処理が適切に行われるための具体的な方策を講じているか								21.25	83.75	18.75	73.75	18.75	78.75	17.50	65.00
						個人情報保護、情報公開を適切に行う体制ができていないか															
		施設の利用に係る事務処理フローは適切か																			
安全性の確保	10	利用者の安全対策及び緊急時の連絡体制等、危機管理体制が確立されているか		42.50		37.50		40.00		32.50											
		安全管理、衛生管理、危機管理等の徹底に向けたマニュアルの整備及び研修等による職員の対応力向上に資する取組があるか																			
		経済性	20									経費節減、収支計画の妥当性	10	自らのノウハウを活かした創意工夫による経費節減のための具体的な方策があるか		35.00	67.50	40.00	75.00	27.50	65.00
収支予算書の積算内容は妥当か																					
地域経済への貢献	10			市内における雇用の創出、雇用の拡大（障がい者雇用の確保を含む）は提案されているか		32.50		35.00		37.50		37.50									
業務遂行能力	10	資質・実績	5	コンプライアンス、環境配慮等について理解があるか		22.50	41.25	21.25	40.00	21.25	40.00	16.25	35.00								
				類似施設や関連業務の管理運営実績があるか																	
文化事業の計画性	20	財務状況	5	団体の財政状況は健全か		18.75		18.75		18.75		18.75									
				事業概要と収支計画書の積算内容は妥当か																	
		企画提案事業	10	類似事業の経験を活かせる提案となっているか		18.75	78.75	40.00	80.00	30.00	61.25	32.50	68.75								
				地域や市内の文化芸術団体との連携によって、市の文化振興に資する有効な事業が提案されているか																	
				鑑賞型事業、参加・体験事業、次世代育成事業、多目的ドーム開放事業、文化会館オープニングセレモニーなどの事業内容と企画提案事業計画書の積算内容は妥当か																	
自主事業	5	事業者の特色を活かした積極的な提案内容となっているか		20.00		20.00		12.50		17.50											
		観客動員予想や料金設定などは具体的に示されているか																			
点数						393.75		382.50		363.75		346.25									

⑤選定理由

本施設は、市民の文化活動の拠点として文化活動の発表の場や各文化団体やサークルを繋げる役割を担うほか、誰もが気軽に文化芸術に触れることができるようにすることを目的として設置された施設である。コロナ禍以前（平成30年度までの5年間）の施設の年間稼働率については、市民会館は平均33.1%、文化会館は平均32.8%であった。指定管理者制度を導入することについては、両館ともに、稼働率を高める貸館サービスの向上に努め、文化団体の活動を活発にするとともに、いかに良質なサービスの提供や魅力あるイベント企画によって利用促進を図り施設の稼働率を上げることができるか、両館の運営により市民の厚生を向上させることができるか、また、利用料金を指定管理者の収入とすることでサービスの質の向上や管理運営経費の削減が行えるかという点を重視し、評価基準を設定している。

公募の結果、本施設には4団体から申請があり、審査の結果、いずれも本市が求める要求水準を満たした提案であり、総配点の50%を超える得点を獲得していた。中でも鈴鹿アトラティブデザインの提案は、市民ニーズの高い文化事業に留まらず、文化的価値の高い事業についても機会を創出するアイデアや、文化会館のリニューアルイベントをきっかけとした、その後の集客にもつながる内容であった。施設管理についても、全国の施設運営ノウハウを活かした、老朽化対策など施設管理に欠かせない安全安心な運営が期待できる。

また、評価結果も、4団体の中でより高い得点を獲得しているため、同団体を指定管理者の候補者として選定することとした。

なお、年間稼働率の目標は40%としており、新たな利用者の掘り起こしや自主事業による集客など、積極的な取組による稼働率の向上に期待したい。

4 答申に当たって

指定管理者の候補者選定の対象となった施設については、従前は直営にて運営していた。

今回、指定管理者制度を導入するに当たっては、多様化する市民ニーズに、より効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に、民間の能力を活用することで、市民サービスの向上が期待できる。

指定管理者制度導入後は、継続的かつ安定的な施設管理運営のため、モニタリングが重要な役割を果たす。指定管理料に見合う市民サービスの向上や、将来に渡って引き続き指定管理業務を安定的に実施できるか等をモニタリングの中で注意深く観察し、管理運営に活かすよう努められたい。

なお、今回、指定管理者候補者とした鈴鹿アートライフデザインにおいては、代表団体が全体のマネジメントを行い、その提案内容を確実に履行するとともに、指定管理者制度の趣旨を十分に踏まえて、管理運営が適切に実施され、さらなる市民サービスの向上など、制度の効果が最大限発揮されるよう、努められたい。